

どうぶつたちの病院では、みなさまのご支援のもと、2023 年度もツシマヤマネコをはじめ野生動物の保護活動と飼育動物の適正飼養普及活動などに取り組むことができました。

コロナ関連の行動制限がなくなるにつれ、観光など人間活動も元に戻りつつあり、ツシマヤマネコにとって、近年大きな問題になっているくくり罠などの錯誤捕獲のほか、交通事故の救護も増えています。

2023 年夏に交通事故により保護され、野生復帰訓練を経て、4月に放獣された「ひかり」は、残念ながら1ヶ月経たぬうちに命を落としました。私達をふくめ関係者は、初の試みの難しさを実感しつつも、多くの反省と再検討をしなければなりません。一步、一步、それも急がなくてはなりません。

野生の声を聞き、地域住民とともに諸問題を解決するために、どうぶつたちの病院の活動は続きます。引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

対馬プロジェクト

長崎県対馬のみに生息し、絶滅の危機に瀕するツシマヤマネコの保護活動のため、本法人は対馬動物医療センター（動物病院）を運営し、獣医師と動物看護師が常駐しています。また、環境省の対馬野生生物保護センターおよびツシマヤマネコ野生順化ステーションにツシマヤマネコの飼育担当等を常駐させています。

■ ツシマヤマネコ保護事業 ■

現在のツシマヤマネコの野生個体数（推定） 90～100 頭

2023 年度 保護された個体数 11 頭

放獣 8 頭 死亡 0 頭 治療中 1 頭 飼育下導入 2 頭

2023 年度 交通事故などによる死体収容 6 頭

●対馬野生生物保護センターで飼育されているツシマヤマネコの飼育や健康診断、野生のツシマヤマネコの緊急的な保護や治療等、また普及啓発事業の補助、ツシマヤマネコの保護増殖に関する会議への出席等、実施しました（環境省受託事業）。

保護個体について

① Mg-75

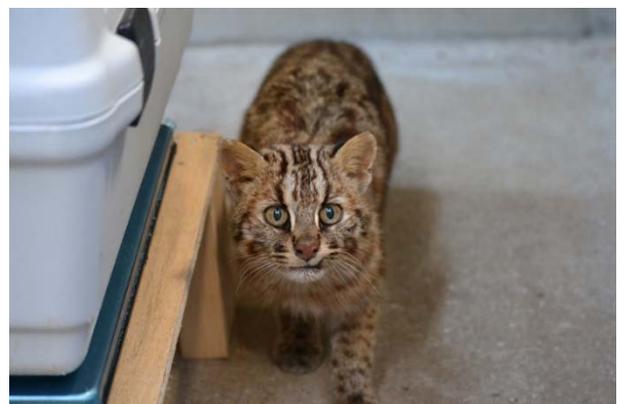
- ・2023 年 12 月 12 日、24 日、2024 年 1 月 12 日
いずれも錯誤捕獲により保護。健診を行い放獣。

② Mh-98

- ・2022 年 8 月 5 日より検査捕獲を重ね、3 回目の検査捕獲後、手術を経て放獣を断念。飼育下導入。

③ Mo-100

- ・2022 年 3 月 28 日、左後肢外傷により保護。
- ・断脚手術後、2023 年 5 月 29 日に放獣。



屋外で管理中の Mg-75

④ Ms-108

- ・2023年4月19日、錯誤捕獲（くくり罠）により保護。
- ・断脚手術後、放獣は断念し、繁殖可能個体として飼育下へ導入。

⑤ Mk-109

- ・2023年7月18日、交通事故により保護、リハビリを経て放獣。

⑥ Mg-110

- ・2023年11月19日、錯誤捕獲（箱罠）により保護、衰弱していたが回復し放獣。

⑦ Fn-111

- ・2023年11月26日、錯誤捕獲（箱罠）により保護、衰弱していたが回復し放獣。

⑧ Mg-112

- ・2023年12月4日、錯誤捕獲（箱罠）により保護、衰弱していたが回復し放獣。

⑨ Fk-113

- ・2023年12月23日、迷い込みにより保護、衰弱していたが回復し放獣。

⑩ CMS-37

- ・2023年6月10日、外傷により衰弱していたが回復し放獣。その後も検査捕獲と健診を継続。



入院室で管理中の Mk-109



Fk-113の検査風景

飼育個体について

福岡市動物園から4代目展示個体として対馬野生生物保護センターに2019年に対馬にやってきた「かなた（8歳）」は元気に過ごしています。受け入れ当初より導入しているハズバンダリートレーニング（受診動作訓練：対象野生動物の治療時等に人に触れられるストレスを軽減するための訓練）の成果として、無保定下での定期駆虫薬の塗布に成功しました。



No,71（かなた）のケージの改修作業

●ツシマヤマネコ野生順化ステーションでの、ツシマヤマネコの野生復帰を想定した技術開発支援等の補助を実施しました。

3頭を対象とした野生順化訓練および技術開発を行い、うち2頭は動物園へ搬出済み（No97、No99）、1頭は2024年度になりますが、野生復帰後に残念ながら死亡を確認しました（Mk-109）。また、1頭（No103）について、繁殖期までの飼育管理をしています。

ツシマヤマネコの餌動物の捕獲訓練では、まず比較的狭いケージ内で、動物園では与えられなかったネズミ類、魚類や爬虫類、鳥類などの活餌を用いて、それぞれ捕獲難易度のレベルを設けて行われ、最終段階として自然環境を模した大型の野生順化ケージでの捕獲訓練を実施しています。捕獲能力には個体差があるため、様々な訓練データの蓄積が今後の野生復帰へむけた技術の向上につながります。（環境省受託事業）



管理区域でドブネズミを捕らえた Mk-109



GPS首輪を装着した No.99



管理区域でアオダイショウと対峙する No.99



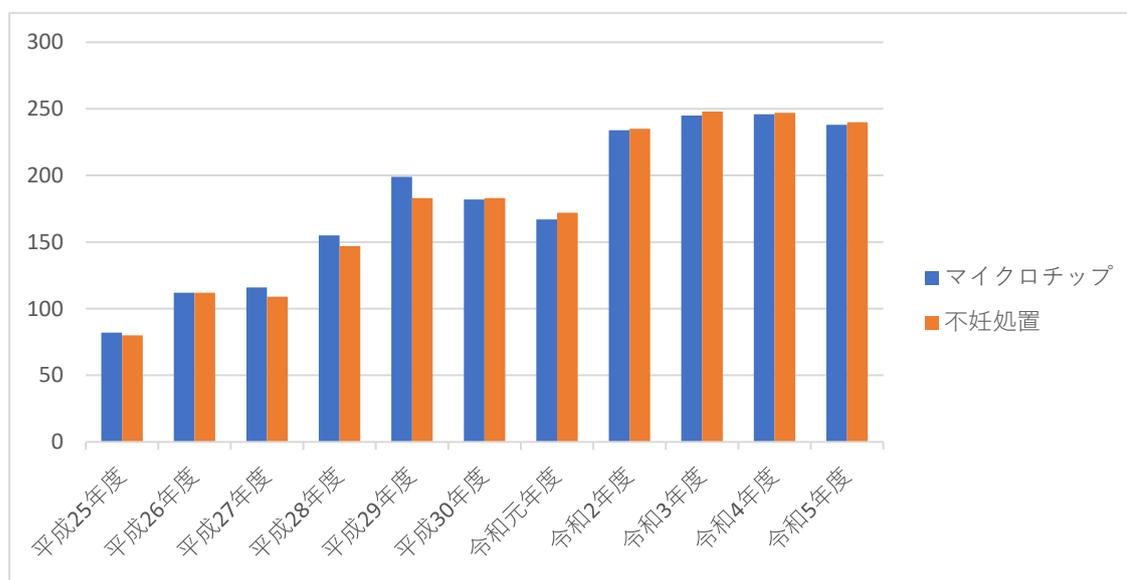
検疫管理中の No.103

●国が進めるツシマヤマネコ野生復帰事業に向けた、ツシマヤマネコの生息環境整備のため、対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会（※）では 2013 年度から飼い主不明のネコ（ノラネコ、世話ネコ）への不妊化処置を実施しています。ツシマヤマネコの生息を脅かす原因のひとつであるノラネコからの感染症（FIV（ネコエイズ）/FeIV（ネコ白血病））を防ぎ、ノラネコの個体数を減らす対策です。同協議会と各集落が協力して実施体制を構築し、本法人がネコの捕獲・不妊処置やワクチン接種、マイクロチップ挿入等の医療処置を実施し、捕獲集落にて放獣しています。2023 年度は継続中の 2 地区にて、合計 18 頭のネコを処置しました（対馬市受託事業）。

（※対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会：環境省、長崎県、対馬市、学識経験者、長崎県および福岡県獣医師会、本法人）

●飼い主不明のネコ以外の「飼養ネコ」に対して、対馬市ではネコ適正飼養条例により、マイクロチップ挿入および飼育登録と不妊処置（屋外飼育の場合）が義務化されています。2018 年度までは、対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会の「ネコの健康生活サポートキャンペーン」により、飼い主の負担を軽減（2012 年までは全額無料、2013～2018 年は一部負担）してきましたが、キャンペーン終了に伴い 2019 年度からは、飼い主の全額負担となりました。なお、FIV（ネコエイズ）/FeIV（ネコ白血病）検査は、2023 年度も日本全薬工業株式会社様のご厚意により、通常の半額で実施できました。

飼い主の費用負担となってからも、不妊処置等の実施件数（対馬全体）は年間 240 頭と高い水準が続いています。これまでの普及啓発活動により、市民の意識が向上し、条例が社会に浸透してきたためと考えられます。



マイクロチップ・不妊手術の件数（対馬全体）

●放獣後のツシマヤマネコの追跡調査

2023年1月より、北九州市立自然史・歴史博物館の中西希氏との共同研究として、治療を終えて放獣されたCMS-37の追跡調査を実施しています。

CMS-37（雄）は、2012年12月に琉球大学の捕獲調査により初確認され（当時亜成獣）、マイクロチップを挿入、発信機を装着されましたが発信機は数週間後に脱落していました。

その後、2022年5月に左前肢を負傷した状態で保護され、マイクロチップでCMS-37と確認されました。変形した左前肢の先端を切除し、肉球転移手術を行って、関係者の検討を経たのち、2023年1月に放獣しました。野生下で10歳を超えており、術後の経過の知見を得るために、終末期までの追跡調査を実施することとなりました。



保護時の右前肢



手術直後



放獣前

週に1-3回、職員がラジオテレメトリー調査を行い、検査捕獲を5月と11月に実施しました。検査では患肢の状態もきれいに維持されていることが確認でき、体重もほとんど減少がみられず経過は良好です。健常個体と同程度の行動圏を持ち、2023年4月上旬には他個体（メスと推測）と連れ添っている様子が自動撮影カメラに記録されたことから自然繁殖にも寄与している可能性が示唆されます。引き続きモニタリングを実施する予定です。



11月の検査捕獲時



自動撮影カメラに写ったCMS-37と他個体



11月検査捕獲時の患肢の状態

● 鶏小屋補修プロジェクトとその後

2021年度に長崎県の助成を受けて実施したプロジェクトの継続事業です。ツシヤママネコなど野生動物が鶏小屋や家屋に侵入し、獣害防止のため設置された罠に錯誤捕獲されることを防止するため、管理者の了解を得て、必要な補修作業に協力する取り組みです。



鶏小屋の現況（2023年度）

2021年度に実施した鶏小屋では、その後も管理者へヒアリングを続け、追加の補修を予定していたところ、管理者により早々に補修がなされました。嬉しい成果であり、引き続きサポートを続けます。

さらに、2023年度は、ある家屋で、侵入動物を捕獲するために設置された箱罠に、ツシマヤマネコが誤って捕獲されることが2回続けて発生したため、環境省と共同により、侵入経路調査を行い、床下の侵入箇所を特定して、被覆作業を実施しました。管理者には、今後は箱罠を設置することなく、被害があれば通報していただくようお願いしました。



現地作業の様子（環境省職員と当法人職員で実施）

■ ツシマヤマネコ以外の野生動物保護事業 ■

地域住民および関係機関からの要請を受け、本法人対馬動物医療センターにて9件の野生動物を救護しました。

内訳：ツシマテン(2)、ハヤブサ(1)、カイツブリ(1)、ミソサザイ(1)、
オオハム(1)、コシジロウミツバメ(1)、キレンジャク(1)、カモメ(1)

予後：野生復帰 5

死亡 3（カイツブリ、ミソサザイ、オオハム）

終生飼育 2（ツシマテン） 昨年からの継続 1頭含む



コシジロウミツバメ



カモメ

■ 一般診療事業 ■

対馬市北部にある唯一の動物病院として、本法人対馬動物医療センターにて 2,513 件の診療を実施しました。

■ 教育普及活動 ■

● 実習生の受け入れ

対馬動物医療センターおよび対馬野生生物保護センター（TWCC）における、インターン生の実習（職場体験等）の受け入れをしました。

- ・ 東京環境工科専門学校 2 年生
- ・ 中央動物専門学校 3 年生



夏季インターン受け入れの様子（Mk-109 の診察、給餌）

● ツシマヤマネコを飼育している動物園でのイベント参加など

京都市動物園「やまねこ博覧会」（10月14・15日）

井の頭自然文化園「ヤマネコ祭り」（10月28・29日）

京都では職員の太田による講演「対馬の自然環境とツシマヤマネコを取り巻く問題」を行い、対馬での現状を伝えました。京都市動物園、井の頭自然文化園のいずれでも、ブースでの活動紹介とオリジナルグッズ販売を行い、多くの来場者に対馬からの声を届けました。ツシマヤマネコは、動物園では比較的小型でひっそりした動物なので目立たないかもしれませんが、注目してもらう大事な機会と考えています。

ツシマヤマネコの情報や、どうぶつたちの病院の活動について、従来のホームページのほか、フェイスブック、X（ツイッター）、YouTube など、SNS を利用した発信にも努めています。

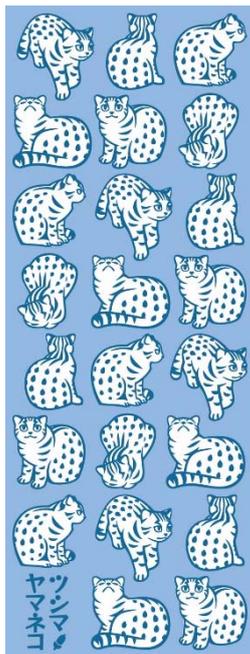


● オリジナルグッズの制作

保護対象の野生動物や、当法人の活動について、より多くの方に関心と理解をもっていただくために、オリジナルグッズを制作し、ホームページを通しての販売のほか、対馬野生生物保護センター、イベント会場等で販売しています。2023年度は、それまでのコロナ禍の反動でしょうか、売行きは大変好調でした。再発注に追われつつ、マグカップと手ぬぐい、エコバックについて、新色を制作しました。

太田撮影のポストカードも新たに制作し、ご寄付や募金のお礼用に、主に使用しています。

引き続き、一般社団法人 MIT と西海国立公園九十九島動植物園森きらら内のショップでの委託販売をしています。さらに、「ほっこりごはん ひよこ豆」（東京都国立市・定食屋）さんの店内において、数は少しですが販売していただいています。



収支報告

		(単位：円)
収入の部		
	会費収入	100,000
	寄付金収入	806,724
	助成金収入	0
	事業収入	56,648,710
	その他（雑収入、受取利息など）	181,232
	計	57,736,666
支出の部		
	事業費	
	対馬プロジェクト	48,706,573
	受託事業	(26,765,706)
	独自事業（動物診療、野生動物保護、保護収容ネコ等）	(20,417,945)
	普及啓発事業	(1,522,922)
	管理費	8,481,638
	計	57,188,211
	当期収支差額	548,455
	前期繰越収支差額	38,101,189
	次期繰越収支差額	38,649,644